深浦円覚寺古典籍保存調査の継続と地域への貢献

弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター　センター長　李　永　俊

この度、昨年に引き続いて『深浦円覚寺所蔵古典籍調査報告書』第二集を刊行することとなりました。弘前大学人文社会科学部地域未来創生センターは、平成二十六年（二〇一四年）の設立以来、地域の諸課題に取り組んで参りましたが、センター三部門中の文化資源・地域文化活用部門では、渡辺麻里子部門長を中心にして、津軽地域の文献資史料を調査研究し、地域の文化資源の発掘・活用を進めてきました。特に、青森を代表する古刹である深浦円覚寺所蔵の古典籍資料を調査する本活動は、当部門の大きな柱となっています。

深浦円覚寺古典籍資料保存調査プロジェクトは、平成二十九年に調査を開始して以来、次々と新たな資料を発見し、新たな歴史を解明してきました。その成果は、令和元年七月に、弘前大学におけるフォーラムで披露し、来場くださった多くの市民の皆様にお伝えすることができました。また一二月には高校生や町民を対象にした弘前大学深浦エコサテライトキャンパス特別公開講座を開催し、実際に円覚寺の本に触れてもらう機会としました。調査には、町民の方々にもご参加いただき、市民と共に文献資料調査を行う市民参加型調査「青森モデル」を作り、運営していくことも本事業の目標としています。十月には、醍醐寺聖教調査団の皆様にもお越しいただくことができました。平成三十一年三月には、同じく文献資料の調査研究を目的とする「名古屋大学文学研究科人類文化遺産テクスト学研究センター」を有する名古屋大学大学院人文学研究科と、弘前大学人文社会科学部との間で、学術交流協定を締結するなど、調査研究の輪が広がっています。

また今年度も、公益財団法人青森学術文化振興財団から「深浦町における歴史文化資源調査とその活用による津軽

地域振興事業」の申請に対して助成を受けることができ、この円覚寺古典籍保存調査プロジェクトを支えていただきました。多くの皆様のご協力に、心より御礼申し上げます。

深浦円覚寺が今に伝える貴重な資料が、この報告書によって、多くの人に知られるようになることは大変意義のあることです。地域の文化資源を発掘し、未来につなげる本事業が、青森県の目指す、持続可能な社会作りの一助となることを願っています。

これまでの皆様のご協力に感謝しつつ、今後とも、引き続き、皆様からのご支援を宜しくお願いいたします。

（令和二年（二〇二〇）一月吉日記）